

第7回豊岡市地域コミュニティビジョン策定検討委員会会議録（要旨）

日時：令和元年 11月1日（金）

場所：市役所本庁舎7階第3委員会室

出席委員：作野委員長・木村副委員長・井原委員・今西委員・小熊委員・森本委員・上田委員
西村委員

1 開会

2 報告

地域コミュニティビジョン（素案）地域説明会・職員説明会を8月25日、26日の2日間、4会場で実施しました。

3 協議

（1）意見募集（パブリックコメント）の結果と回答

＜事務局からパブリックコメントの結果と回答について説明＞

委員長 この意見はホームページ、文書閲覧、地域説明会終了時のアンケートで得られたものです。多くのご意見、具体的なお指摘があり、資料2では、それに対する市の考えが示されています。これに関して委員の皆さんのご意見をお願いします。

委員A No. 25について、P51（1）-②、P52-(2)-①の「全職員がコミュニティ能力をアップする」とありますが、コミュニティ能力とはどのようなものでしょうか。

事務局 確かに抽象的な表現になっています。文字にはいろいろな意味が込められていますが、読み手にとって捉えていただく意味も含めています。

事務局 職員向けに協働アンケートを実施した際、地域と協働する上でのコミュニケーション能力やコーディネート能力を身に付けたいという声が多くありました。具体的には、そういった地域との向き合い方のようなものと考えていますが、いろいろな意味が含まれているので、今後分かりやすい表現を検討します。

委員長 地域と関わる力というようなイメージだと思います。パブリックコメントの意見でコミュニティ能力と表現されていたので、そのまま反映していますが、記述の仕方は検討してください。

委員B パブリックコメントは文章で意見があり、それを文章で返すものになるので、どうしても読み手によって解釈が異なるということは注意した方が良いと思います。

No.1の意見「市レベルでの問題と、コミュニティレベルでの問題は明確に分けて考えるべきでは」はナショナルスタンダード的な市全体で取組まないといけないことと、もっとマイクロなコミュニティ単位で解決できることをしっかり分けて考えて、市全体のことは積極的に行政が対応してほしいという意味だと私は捉えました。これに対する「市の役割とコミュニティの役割を明確に分けることはできません」という市の回答はまずいと思います。もっと適切な解釈をして回答していただいた方が良いと思います。いろいろな行政計画でパブリックコメントの回答を手伝っていますが、この地域コミュニティビジョンは単なる行政計画ではなくて、地域住民に行政が真摯に向き合って作ったのが地域コミュニティであり、そこでの地域づくりに向けた行政の決意表明だと考えると、この市の回答案はやや上から目線に感じます。もう少し地域住民に寄り添った書き方、丁寧な回答をされた方が良いのではないかと感じました。

事務局

貴重なご意見をありがとうございます。市の職員から市民に寄り添うようなことを考えながら伝えていきたいと考えています。一方、あまり書きすぎてしまうと、解釈しづらくなるということもありますので、簡潔に分かりやすくということ意識して回答したいと思います。

委員長

No.1の意見については、委員Bがおっしゃることもよく分かりますが、それを含めて、このビジョンはコミュニティレベルのものを記載しているつもりなので、それが伝わっていないというのが問題だと思っています。まずは、そのことをお伝えして、コミュニティレベルのことの中で、行政と地域コミュニティの役割についてなかなか線引きすることはできないというように回答していただければと思います。

また、回答欄が空欄になっている部分はゼロ回答のように思われてしまうので、何か回答するようにしてください。

委員E

回答で「～してください」という言い回しは丸投げ感があるので、もう少し市民に寄り添った回答の仕方をお願いします。

事務局

市民感情に寄り添うような回答にします。

委員長

パブリックコメントのNo.18の「福祉見守り活動の専門的な職員の配置も大事」という趣旨の意見について、市民側は地域での暮らしが厳しくなる中で、行政に支援を求めますが、行政側としては人口が減り、財政が厳しくなっていくのでそういった支援が難しくなります。社協が行政と一体となって活動をしていく中で、協働で取り組んでいくことになるのですが、このような意見はよくいただくと思います。この意見についてはどうお考えですか。行政との関係の中であり方を変える可能性や今取り組まれていることはありますか。

委員D

当団体の職員は地域に入って、地域の方々と協働するというのが仕事だと考えています。行政との連携というところでは、実働部隊として地域の中で動きますが、限界はあるので後押しをいただけたら、地域の中でももう少し動きやすくな

るのではないかと感じています。

(2) 素案に対する意見等について

＜事務局から素案に対する委員からの意見について説明＞

(3) 地域コミュニティビジョン（素案）の修正箇所について

＜事務局から地域コミュニティビジョン（素案）の修正箇所について説明＞

委員長 この修正については、パブリックコメントの意見や市役所各課に照会した結果が反映されています。ここで、委員の皆さんにお伝えしたいのが、これまでP. 60で「(仮称) 地域アドバイザー会議」という表現をしていたものを「(仮称) 地域づくりアドバイザー会議」とした方が、明確ではないかということをご提案します。同様にP. 59の「(仮称) 地域職員会議」も単なる職員会議だと曖昧ですので、「(仮称) 地域づくり職員会議」としています。これらの表現についても、素案に対する意見と併せてご意見ををお願いします。

委員E P. 22の図表2-34などはもう少し文字が大きくなりませんか。また、素案の中でここは重要というところは、太字にするなどしてポイントが分かるようにしていただければと思います。地域住民に読んでいただくものなので、見やすくした方が良くと思います。

委員長 文字の大きさについては、図表を中心に見やすいように修正していただければと思います。重要な部分を太字にするというのは、少し難しいかもしれませんが、というのもビジョン全体の責任は委員会で行うことになるのですが、本文について現状がどうであるとか、市役所の関係各課が所管しているものもありますので、こちらで勝手に重要だと思うところを太字にしてしまうのは支障が出るかもしれません。委員の皆さんはいかがですか。

委員B このビジョンには、本編の他に概要版のパンフレットもあるので、そちらで分かりやすいように強調するように編集していけば良いのではないのでしょうか。

事務局 見やすくする配慮については、この後に本編の校正等を行う際に検討していく予定です。また、概要版についても作成予定であるのでそこでも検討します。

委員B 本編の文章はもっと平易な表現にしてもらい、連携・協働というのなら行政用語的なものは言い換えたほうが良いと思います。特にP. 60の図表4-4庁内推進体制のイメージで、中間支援組織と社会福祉協議会等関係組織が同じような橋渡しの役割を担う際に、図では横のつながりですが縦にするとこれまでのような縦割りのようになってしまっているのではないのでしょうか。中間支援組織を行政と地域コミュニティをつなぐ役割として一緒にやっていくのであれば、中間支援組織に社協やその他の機関が関わり合い、特に地域コミュニティには中間支援がつなぎ役の代表にならないと、地域福祉のことで社協が中心になってやっていると中間支援

組織がそのことを知らないことになるのではないのでしょうか。

また、行政側でも地域コミュニティ担当者会議で、関わっている担当課（都市整備課、建設課、防災課等）を書いた方がいいのではないのでしょうか。最後に、これから行政区の関係について、行政区とコミュニティの関係を考えていくのであれば、総務課は明記していたほうがいいのではないのでしょうか。

それと、P. 63 の下から4行目「(仮称) 地域職員会議」は、「(仮称) 地域づくり職員会議」ということですね。そして、図表 4-5 地域コミュニティ組織と行政のPDCA サイクルについては、私の考えているイメージと少し違います。図では地域づくりアドバイザー会議が進行管理するようになっていますが、指導・助言や後方支援するというイメージです。またこの図では、行政側の矢印がP→D→C→Aでなく、P→A→C→Dになっています。地域づくりアドバイザー会議の役割が入るのであれば、中間支援組織の役割もここで明記し、これらの動きに関わり合うことが必要であると考えます。

もう一点、P. 67 以降について行政区のことが書かれていますが、専門家の立場としては非常に読み応えのある内容なのですが、非常に難解な言葉が連発されています。P. 64 までと、P. 65 以降では書きぶりの色合いが違うので、あえて分けたほうがいいのではないのでしょうか。残された課題以降は「論考」として、ここから先は論文のように割り切って示した方がいいのかと考えます。その他、細かいことについては、これまでのように委員会終了後の意見提出でお伝えします。

委員長

「第5章おわりに」は、これまでも紆余曲折があり、書きぶりや内容については、「おわりに」以外については、論考というよりも別の形で示した方がよいのかもしれませんので、宿題とさせていただきます。また、P. 63 の地域づくりアドバイザー会議については、進行管理の意味合いは地域コミュニティの進行管理を行うという意味ではなく、コミュニティビジョンに書かれている全体に目を光らせておくという意味です。例えば、全体を四角で囲んで、地域づくりアドバイザー会議がアドバイスをするという意味で考えたいと思います。P. 60 の図表は、中間支援組織の機能を踏まえて検討したいと思います。

委員Bからご指摘ありましたように、委員会としては本日が最後となりますが、これまでと同じく後日意見集約シートで意見募集をしますので、皆さんからのご意見をお願いしたいと思います。この他に全体を通して、ご意見はありますか。

委員D

委員Bからご指摘のありましたP. 60 の図表について、社協の役割として福祉や防災の問題に関わりながら、地域での支え合い・地域力を高めることに関わることとしています。中間支援組織との役割分担をどうするかについては、ビジョンのめざすところは中間支援組織も社協も一緒ですので、中間支援組織や社協が言うことが違わないようにしないとイケないと考えます。ビジョンの目標実現のために、どのように活動していくか等を情報共有するかということも、社協・行政共に共有する場をつくるということが図でも表現が出来ればと考えています。

- 委員長 今のご意見も含めて、この図表のあり方や地域づくりアドバイザー会議のあり方も検討させていただきます。この他について事務局からありますでしょうか。
- 事務局 P.11（素案P.74）に各委員の方の名簿を追加しました。委員の分野、氏名、所属等について、この内容でよろしいですか。
- 委員A 私の場合、どのようになるのでしょうか。地域コミュニティ関係者でもありませんが。
- 委員長 もともと設置要綱があると思いますが、それに合わせてはどうでしょうか。
- 事務局 設置要綱では、地域コミュニティアドバイザーや学識経験者、市民など分野ごとの分け方にしています。
- 委員長 その分け方のほうがいいでしょう。委員の皆さんも直してほしい箇所がありましたら、事務局までお願いします。それではここで整理させていただきます。
- 本日、多くの部分の修正を行いました。委員の皆さんから意見もいただきました。また、後日気になる部分を提出していただきたいと思います。それらを集約し、修正等が必要ならば修正をするわけですが、本来それを決定するのはこの委員会です。しかし、本日が最終の予定ですので、最終的な修正は委員長と事務局とで行い、その結果を委員の皆さんにお知らせするという事で進めさせてもらうということよろしいでしょうか。
- 各委員 （異議なし）

（４）ビジョン実現に向けた今後の動き

①ビジョン完成までの流れ

<事務局から①ビジョン完成までの流れについて説明>

- 委員長 それでは今後の流れは、冊子等のデザインも業者に依頼してなるべく見やすいものにしていく、文字なども大きくできるようにお願いします。また、このビジョンに書かれていることを実現するために、現段階での具体的な方策について事務局から説明いただきます。②、③、④一括してよろしくをお願いします。

②地域コミュニティ推進アクションプランについて

③（仮称）地域づくりアドバイザー会議について

④（仮称）地域づくり職員会議について

<事務局から②、③、④について説明>

- 委員長 この3つについて、本日初めての説明ですが、ご意見・お気づきの点がありましたらよろしくをお願いします。

- 委員B 地域づくりアドバイザー会議ですが、大きな役割が与えられているのではないかと考えています。この会議の委員となるアドバイザーの荷が重いので、委員を受けられるかどうか。アドバイザーを本業でやっている人はほとんどおらず、委員

長も大学の先生であり、私も別に本業があり、傍らでこのような地域支援を行っています。市が関わって欲しいというのは理解できるが、他の方もそれぞれ本業があるなかでどこまで関わってもらえるか不安もあります。

委員長 今、共同研究を島根大学と豊岡市で行っていますが、コミュニティと行政区がどうなればうまくいくか研究しています。研究協議会も運営もしています。共同研究での議論をオーソライズして、地域づくりアドバイザー会議としてアクションプランと結び付けながら行政と結び付け、住民とも関係を深めていくということで案が作られています。まだ検討の余地もあるとは思いますが。

委員E 地域サポーターという人が構成員としてあがっていますが、どの会議にも入っています。この人の役割はどういうものになるのでしょうか。

委員長 この後に⑤中間支援組織の説明もありますので、その説明を事務局よりお願いします。

⑤中間支援機能のあり方について

<地域サポーターから⑤について説明>

委員長 委員Eから質問のありました内容について、もう少し具体的に回答いただけますでしょうか。

事務局 第5回委員会でも説明をしましたが、行政と地域コミュニティ組織をつなぎながら支援を行う組織として中間支援組織の設置を検討しております。今年度はその準備として、その支援ニーズや組織のあり方の調査研究を行っているのが地域サポーターであり、説明者が地域サポーターとして活動しています。地域サポーターと中間支援組織は現時点では同じであり、今後サポーターが中心となって中間支援組織を運営していくというイメージです。

委員E つまり、市の雇用職員ではないが、P. 60の記述にもある「振興局地域振興課では専門性の必要なかわり方が行えない」ため、その対処を行うというのは大変な業務だと思うのですが。

事務局 先ほど委員Bからも、中間支援組織が集約するというイメージでという発言を頂きましたが、市と違う立場から地域コミュニティをコーディネートする役割として機能するよう考えています。

委員長 資料7の「地域づくり職員会議の概要」の構成員のところに社会福祉協議会と並んで地域サポーターも入っているが、これは構成員というよりは参画するというイメージで捉えてもらうということだと思います。職員会議自体は市の職員が直接的には構成員になることとなります。

これらのことは本日初めて説明する内容であり、ビジョンを実現するための行政側の前向きな動きとして捉えていただければと考えています。

4 その他

＜事務局から地域づくり計画策定促進に向けた支援、取組について説明＞

- 委員長 これについては協議事項ではなく、このように地域づくり計画策定に向けた支援をすることとなるという説明です。
- 最後に、委員会最終日にあたって、委員の皆様から一言ずつ頂きたいと思いません。
- 委員C 最初に「あり方方針」を見た時に驚き、ビジョン策定委員に選任いただき、委員会の議論も真摯に行われていることに感服しました。コミュニティをつくるために住民と行政とのパートナーシップが非常に大切で、人間力・精神力など生涯学習の観点からの考え方が求められると思います。
- 問題点として二つあると思いますが、一つは学校との問題です。この会議の中に学校というものがありません。文章の中には学校というものが入っていますが、地域防災、地域福祉、地域振興、人づくりの中に学校という存在がありません。地域に教育推進委員なども考えていかなければならないと思います。もう一つは市長の言葉に「Local & Global City」という考え方がありますが、このビジョンでは Global という観点が少し弱いと思います。多文化共生や人権ということや、外国・国際社会への発信ということも考えていかなければならないと思います。
- 委員G 本ビジョンはかなりの頁数になっており、各コミュニティにも配布されると思いますが、実際に住民が理解されるかということです。いくらわかりやすい表現にしても頁数が多いのでは読んでもらいにくいのではないかと。さまざまな啓発活動がありますが、周知の方法は考えてほしいと思います。
- 委員E 参加させてもらう時に自分の将来を考え、自分ならどうするかと考えながら発言しました。役員のなり手がいないことが問題であり、重荷にもなっていると思います。地域と関わる市職員の育成と挙げてもらっているが、これが一番大切だと思います。担当者を頻繁に変えないような人材育成をしてほしいと思います。
- 委員D ビジョンをつくることが目的ではなく、一人一人が豊かに暮らしていくことのできる地域をつくるのが目的であると思います。これからも住民との話し合い・学びの場で一緒につくり上げるという観点が大切だと改めて考えました。
- 委員B 市としてビジョンをつくりたいという話を最初に聞いた時に、どこかのコンサルタントに依頼するのかと聞いた記憶があります。今回は担当課が自分たちでつくり上げていくというスタンスでされたため、事務局に対しても敬意を表したいと思います。また、行政だから事務局のみというのではなく、行政職員でも委員として参画し、しっかり支えらえるような取組もしてもらえればと考えています。
- 委員F これまでの作業お疲れさまでした。気になったのは地域説明会での地域マネージャーの理解度が低かったというのは課題であり、今後繰り返し説明会等を行っ

て理解度をあげるような取組をお願いします。

委員A

ローカルな話をスマートにまとめたが、それに魂を入れるためにはやはりローカルな話に入らざるを得ないと思います。協働として取り組む場合に、縦割りにならないようにしないといけないし、ローカルに入り込む姿勢がないと実行性は低いのではないかと考えます。また私が暮らしている地区について、非常に恵まれた地域ではありますが、15年前と比較して随分変わってきており、これからの組織づくりも大変だという意見もあります。住民の方はバラバラのほうが動きやすいという意見が多くあり、それではいけないという意見も出つつ(変わりつつ)あると思います。

委員長

委員の皆様には真摯な意見を多数いただき、ありがとうございました。本ビジョンの必要性を訴えたのは私であり、H29年に全て組織が設立され、良くも悪くも組織が安定しすぎている感があり、次への見通しがあった方がいいということで提案しました。全国を取組を見ても、組織をつくるのためのビジョンが大半であり、地域がどうあるべきかを示すビジョンはほとんどないと思います。そういう意味でも、本ビジョンに期待しています。

また、1年半の期間がありながら、本日も多くの修正があった点について力不足も痛感しています。欠けている要素として、グローバルの視点がないという点については、地域力が問われている現代において、豊岡自体はいい地域ではあるが、まだ基礎・基本という観点が弱いのではないかと考えています。他の市町ではもう少し理解してもらえるとということが多いため、そこはまだ問題であるといえます。長い期間、委員の皆さんには大変お世話になりました。

5 閉会